

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 25 日現在

機関番号：32615

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2022

課題番号：16K02213

研究課題名(和文) 乳井貢の基礎的研究－「聖人の道」と藩政改革

研究課題名(英文) Fundamental Research on Nyu Mitugi: "The way of Sage" and the domain reform

研究代表者

小島 康敬 (KOJIMA, Yasunori)

国際基督教大学・教養学部・名誉教授

研究者番号：70101590

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：弘前市立図書館所蔵の乳井貢の主著『志学幼弁』を校訂翻刻し、詳細な注釈を施し、その成果を『乳井貢『志学幼弁』翻刻・注釈』と題して公刊した(A4版二段組み357頁 印刷製本欧友社 2023年3月15日)。
なお、合わせて乳井貢の経歴、政策、思想等々について分析した論考を解説として加えて掲載した。これによって、彼の朱子学批判、「今日只今」を重視する考え方、プラグマティックな思考法、武門意識などが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

乳井貢は日本思想史上、注目に値する人物であるが、これまでその研究が十分になされていない。その主な要因は信頼に値するテキストがなかったからである。この点、この度の彼の主著『志学幼弁』の翻刻と注釈によって、それが解消され、乳井貢研究の今後の更なる研究の進展がのぞまれる。
なお、本翻刻は国立国会図書館をはじめ、主要研究機関、大学図書館、公立図書館に寄贈手続きをとったので、活用されることが期待できる。

研究成果の概要(英文)：I reprinted Mitsugu Nyui's main work "Shigaku Yoben", which is in the collection of Hirosaki City Library (Oyusha, March 15, 2023).

At the same time, I have added a commentary that analyzes Mitsugu Nyui's career, policies, thoughts, and so on. This clarified his criticism of Neo-Confucianism, his way of thinking that emphasizes "now and now", his pragmatic way of thinking, and his consciousness of Samurai.

研究分野：日本思想史

キーワード：乳井貢 聖人の道 藩政改革 弘前藩 朱子学批判 弘前藩

1. 研究開始当初の背景

弘前藩宝暦改革を推進した乳井貢(1712 - 1792)は日本思想史上、特筆に値する。乳井貢は勘定奉行として弘前藩宝暦期の行財政改革を断行した実務家である。と同時に、山鹿素行、荻生徂徠に私淑し、朱子学を果敢に批判してユニークな視点から儒学を捉え直した特異な思想家でもある。彼は藩財政破綻に際して、金銭に代わって「標符」という通帳(いわば電子マネーの紙媒体版とも言える)による売買システムを実施し、藩財政を立て直し、東北地方を慢性的に襲う飢饉にあっても領内からは餓死者を一人も出さなかった、という。しかし荒療治の改革を喜ばなかった守旧派の反感を買い、改革半ばにして突如失脚に追い込まれる。「標符」の導入が経済的混乱を招いたとする史料もある。彼の領内での評価は毀誉褒貶相半ばした。

こうした彼の政治実践、そしてそれを裏打ちする思想、更には両者の緊密な関係についての学術的研究はほとんどなされてこなかった。確かに、戦前に津軽地域の郷土史研究家によって乳井貢を顕彰すべく、乳井貢顕彰会が設立され『乳井貢全集』全四巻(昭和10年非売品)が刊行されたこともあって、郷土史家の間では名前だけは知られてはいる。しかし彼についての詳細な経歴と彼が断行した宝暦改革の実態の解明は未だ十分に明らかにされておらず、ましてやその改革を支えた彼の思想信条に切り込んだ本格的な研究は未開拓のままである。その意味で彼は安藤昌益以上に「忘れられた思想家」であった。

こうした乳井貢研究の立ち後れの要因は、偏に彼の著述に関する信頼できるテキストが用意されていないことによる。篤志家によって刊行された全集本(『乳井貢全集』全四巻 乳井貢顕彰会 昭和16年)は誤植が余りに多く、且つ句読点が付されておらず、読解に相当な困難を伴い、意味の取れないところも少なくない。また、非売品であったために出版部数も限られており、現在においては入手が極めて困難な状況にある。乳井の著述は多数にのぼる。それらの中でも『志学幼弁』十巻は彼の思想が体系的に語られており、彼の主著と言ってよい。そこで、彼の膨大な著述の中から、『志学幼弁』を選び、信頼できるテキストを校訂・翻刻することとした。弘前市立図書館所蔵には乳井の子孫にあたる乳井龍雄から同図書館に寄贈された、自筆本と目されるものがある。全集本はこれを底本として刊行された。しかし、遺憾ながら、誤植が多く、信頼するテキストとして利用するには難点が残る。そこで、全集本と対校して、句読点を付して、翻刻することを企図した。加えて、『志学幼弁』を読解するにあたっての難解な用語や概念、引用文献の典籍等々について詳細な注釈を施すことを企図した。これによって、乳井貢がどのような典籍をもとに教養を培い、その独自の思想を形成していったかが、より鮮明になってきた。

2. 研究の目的

本研究の目的は主に二つあった。一つには彼の主要著作である『志学幼弁』の校訂・翻刻と本文注釈である。二つにはその作業を通して、乳井貢の思想とその実践を総括的に究明することである。

乳井は多面的な顔を持つ。一地方の武士、勘定奉行、儒者、和算家、戯作家、そして流謫者である。この特異な人物を通して江戸思想史の再検討を意図した。これまで、江戸思想史研究はメジャーな思想家の思想分析を中心になされてきたが、本研究においては地域史レベルでの思想史研究の掘り起こしという視点から、埋もれていた思想家としての乳井貢の政治実践とそれを支えた儒学思想との連動性を考究し、藩政史と思想史とを有機的に連関づけて、日本における「儒学の社会化」の実態を明らかにすることを意図した。その為には、その前提として乳井の主著である『志学幼弁』等の正確な校訂・翻刻が何よりも必要であり、この作業に取り組んだ。翻刻に伴い、彼が著作の中で引用している典籍の出典についての詳細な調査を遂行した。その結果、彼の教養目録ともいべきものが明らかとなり、今後の研究に大いに資する結果が得られた。

3. 研究の方法

(1)乳井の思想を研究するに際しては、その主著である『志学幼弁』の校訂作業が欠かせない。全集本をスキャンし、弘前市立図書館所蔵本(自筆本)をもって校訂した上で、注釈を付けて、翻刻した。(2)乳井に関する史料の徹底的調査と収集。乳井の著作に関しては、全集本に収録されていないものが確認されている。それらを調査し、撮影した。(3)弘前藩には膨大な公式日記(「藩日記」)が残されているが、その中で乳井に関する記事を洗い出し作業を遂行した。(4)史料の解読と分析を通して乳井の施策と思想の連動性を解明した。その際に山鹿素行、荻生徂徠、太宰春台の思想との影響関係をより深く考察した。(5)他領の藩政改革の事例を調査・研究して、乳井の思想と政策を日本思想史全体の中で位置づけて、地域からの江戸思想史の構想を試みた。(6)中国哲学電子化計画、寒泉、漢籍リポジトリ、中華經典古籍庫等のネット上のデータベースを活用して、『志学幼弁』中の引用文献の出典の調査・確認を遂行した。その結果、彼がどのような古典籍を踏まえて独自の思想を形成していったかが明らかとなった。とりわけ、山鹿素行の『聖教要録』、太宰春台の著作と目される『産語』からの引用が多いことは、彼が古学派の思想を自家薬籠のものとしていったことがデータの的に明らかとなった。また、中国古典籍からの引用も幅広くされており、彼の教養目録がいかに多岐に渡っているかも明確になった。

4. 研究成果

研究成果は『乳井貢『志学幼弁』翻刻・注釈』と題して、冊子(A4版二段組 357頁)という形態で公刊し、主要な研究機関、大学図書館、公立図書館に納本した。

翻刻・注釈作業を通して明らかになったことは、乳井貢は単なる実務家ではなく、儒学を深く学んだ思想家でもあったということである。つまり、彼は実務体験を土台に儒教の経典を自在に再解釈し、と同時に思想信念を果敢に実務に反映して、改革に臨んでいったのである。乳井貢は家督五十石でありながら勘定奉行に抜擢されるや、宝暦年間に弘前藩の行財政改革を断行した。当初成果は目覚ましく、宝暦五年(1775)に東北地方一体を襲った大飢饉には「標符」の発行等々、一連の施策をもってし、領内からは餓死者をほとんど出さなかったという。しかし改革を喜ばない守旧派の讒言にあい、道半ばにして改革は頓挫し、流謫の身となる。この流謫の期間に『志学幼弁』は執筆された。それ故に『志学幼弁』には思想と実践とを繋ぎ合わせる形で、彼の熱い思いが切々を著述されている。思想と実践とを繋ぎ合わせるような形で、彼の熱い思いの丈が切々と吐露されている。武門に生まれた者としての強烈的な職責意識、「今日只今」を重視するアトム的な時間論、プラグマティックな実学的思考法、朱子学を机上の空理空論とする苛烈な朱子学批判、ユニークな老荘解釈等々、独自の思想世界が披瀝・展開されている。更に巻九の「雑問」では、豊臣秀吉の朝鮮侵略を「我が神国ヲ盜賊国トセン」とするものであると容赦なく糾弾し、また赤穂四十七士を「人倫ノ大義」を見誤った者と厳しく批判している点も特に注目される。『志学幼弁』は地域史、藩政史のレベルでの政治改革に儒教思想が実際にどの程度関わったのかを知る上においても一級の史料であることが、あらためて再確認された。

これまでの儒学思想史研究は、思想家の言説や観念の分析を中心として進められてきた。しかし、儒教は本来、「治国平天下」を目差す統治論であり、儒者は統治の任を担う官僚である。深く政治に関与すべき存在であった。しかし科擧制が無かった徳川日本では、新井白石等の少ない例を除いて、儒教的知識人が政治の中核にかかわることが殆ど無かった。この点において乳井の思想と実践を研究することは日本での儒教受容の問題を再検討する恰好の素材となる。専門の儒者とはまた違った、勘定奉行として活躍した実務家に儒学がいかに消化されたかということが本研究において明らかとなった。

また本研究において、儒学の地方での実践の実態が明らかにできた。従来の江戸の儒教思想史は著名な人物をもって描かれてきた。しかし、地域史、藩政史のレベルでの政治改革に儒教思想がどの程度関わったのかという点についての研究は未だに不十分である。本研究によって近世地方都市の武士の間で儒教がどのように受容されたかが明示しえた。

なおこれらの乳井貢の思想と実践に関する分析については、「弘前藩宝暦改革の主導者乳井貢の思想と実践」と題した論考を公刊した冊子報告書『乳井貢『志学幼弁』翻刻・注釈』に収録した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小島康敬	4. 巻 1
2. 論文標題 乳井貢『志学幼弁』翻刻・注釈	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 科学研究費助成事業（基盤研究C）報告書	6. 最初と最後の頁 1 - 357
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasunori Kojima	4. 巻 1
2. 論文標題 The Loyalty of Seonbi and Samurai: What to Die For	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Journal of Toegye Studies	6. 最初と最後の頁 91-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 3件/うち国際学会 4件）

1. 発表者名 小島康敬
2. 発表標題 「ソンビ」と「サムライ」の忠義の比較を通して/何に命を賭けるか
3. 学会等名 The Korean Studies Institute（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小島康敬
2. 発表標題 経世致用実学思想の韓日比較
3. 学会等名 ハン溪柳馨遠実学国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小島康敬
2. 発表標題 江戸儒学と礼楽思想
3. 学会等名 日本音楽学会（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小島康敬
2. 発表標題 日本儒学と国学
3. 学会等名 国際シンポジウム「東アジア精神史の再照明」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------